

中国四国Ｊークレジット制度オンライン勉強会（令和７年３月10日）
取組事例紹介 議事概要

○取組事例①：（株）R e v O（レヴォ） 本多代表取締役

	株式会社R e v O （広島県安芸高田市） ○プロジェクト番号：P 2 8 9 ○運営・管理者：株式会社R e v O ○実施地域：全国 ○プロジェクト概要：水稻栽培における中干し期間の延長 ○認証期間の開始日：2024/7/12
---	---

株式会社R e v Oで代表取締役をしている本多正樹と申します。どうぞ皆さんよろしくお願ひします。

○はじめに

2 ページをお願いします。私は、株式会社R e v O（レヴォ）というベンチャーを経営しておりますが、長年、株式会社ハラダファーム本多で、約60ヘクタールの農地で、現在50ヘクタールほどの水稻栽培を中心に農業経営をしています。場所的には島根県と広島県の県境あたりなのですが、中山間地域ということもあり、小さな田んぼが多く、離農者も増え過疎化が進んでいます。仕事がないからと地域を離れていく人が多いこのような中山間地域で何か仕事として生みだせることがないかと模索した中で、日本の食の未来を守り農業の環境価値化で新たな収入源をつくることで、農業者の離農を減らすことや、雇用の創出、農業者の新規参入という可能性を感じて株式会社R e v Oを創業しました。

○取組をはじめるきっかけ

3 ページをお願いします。中干しは、プロセスには稲の生育途中で根が強くなるようにであったり、メタン生成菌の抑制であったりと、目的に行うことは皆さんよくご存知だと思います。このページの説明は省略します。

4 ページをお願いします。我々が気にしている部分は、農業生産者のグループということもあって、昨今問題になっているお米の高温障害や、収量低下が見受けられる中、農研機構も、中干し延長により収量が約3%低下し、1ヘクタールあたり2万円の損失が発生するリスクがあると説明されています。中干しをする水稻生産者にとっては、諸刃の剣であると懸念しておりまして、生産リスクの見極めが重要と注目視しています。

○プロジェクトの概要

5 ページをお願いします。R e v Oとして、水稻生産者ファーストの取組として、ネッ

トゼロファーマーズ（Net-Zero Farmers）という協議会を立ち上げた上で、収量低下を防ぐ栽培方法の開発、指導と、生産者が手軽に参加できる仕組み構築を自らの強みとして、水稻生産者の方に提案し、実践しています。ネットゼロファーマーズは、取組を通じてでた温室効果ガスの削減量を、企業さんの方に売却していくという機能を担っています。実際、Rev0は、私の他、元JAの指導員で現在水稻生産者のメンバーと、元農林水産省職員で、現在畜産をやっている女性のメンバーと3人で取り組んでいます。畜産農家のメンバーがマネージャーとして事務を担当し、現場で農家の指導を元JA指導員のメンバーがフィールドアドバイザーとして担当し、連携をとりながら進めています。スタートアップとしては、あんまり大きく面積を増やしているのではなく対象面積300ヘクタールでスタートして、今回、約160ヘクタールでの認証がおりています。

6ページをお願いします。実際、ネットゼロファーマーズとしてやりたいことは、中干し延長なのですが、私たちも農業者として中山間地域で農業者がいなくなっていく状況の中で、どのような形で持続可能な農業を応援しつつ、脱炭素にも貢献できる形をつくっていくかということで、フェアファームクレジット（Fair-Farm Credit）の販売をしていきます。皆さんはフェアトレードコーヒーをご存知だと思うのですが、フェアトレードと同じ意味合いを持ってフェアファームクレジットとして農業を応援していただきながら脱炭素に貢献してもらおうと考えています。企業さんと農業者さん、消費者さんと生産者さんは、ちょっと距離が離れていると感じています。企業さんに農業を知ってもらい、企業さんに農業体験をしてもらうなどの形をつくっているところです。さらに、農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」や、みどり戦略に関する事業を活用すること等により、環境に優しい農作物を消費者の方に食べていただけるようブランディングの展開も併せて行っているところです。

○今後の展開

7ページをお願いします。2月28日に広島銀行さんと、クレジット売買の契約締結し、100トン購入していただきました。広島県で県内初の中干し延長のクレジット取引が成立しました。Jークレジット制度に取り組む方は多いと思うのですが、農家さんが立ち上げたRev0という会社で中干し延長のクレジットの販売という形をとれたのは広島県初ということで、メディアの方にもクローズアップしていただきました。今回資料にもあるようなネットゼロファーマーズの購入証明書を広島銀行さんへ発行をさせていただきました。スタートアップとして、広島県のフードバトン事業も活用しながら進めております。また、我々だけでなんとなく進めているのではなく、広島県の農業試験場やJA全農ひろしまのチャレンジファーム等において、中干し延長のタイミングや、中干しの時期、生育状況などの実証も併せて行っており、農家さんに説明できる環境もつくりながら進めています。実際、広島銀行さんが購入していただいたことによって、企業さんや農家さんからの多数の反響があり、農業や食に興味を持たれている企業さんへのクレジット販売や、参加農家さんの新たな参入等、広島県を中心に農家さんに寄り添いながら、Jークレジット制度のプロジェクトを進めています。

8ページをお願いします。今回、プロジェクト登録を取得でき、削減量のクレジット認証も取得し、ひととおりの取組を行ったところです。まだまだ至らないことがあるため、

皆様と意見交換をしながら、Rev0といたしましても温室効果ガスの抑制や農家のために成長しきたいと思っておりますので、応援のほどよろしくお願いします。

○質疑応答

水位センサー等のシステム導入の可能性

司会：参加者からの事前質問です。中干しの記録や減水深の測定について水位センサー等のシステム導入を検討していますか。

本多：水位センサーは導入しているところはあります。減水深の測定は、ものさしで測定するところと水位センサーで測定するところがあります。水位センサーは、水田ファーム（Farmo）、一部ワタラス（WATARAS）もあります。全面的に水位計があるわけではありません。あとはファームに関しては電波が届かない場所もあり、電波塔も含めて設置しているところもあります。

収量低下はなかったのか

司会：参加者からの事前質問です。収量低下はあったでしょうか。質問者の県の試験場の結果では、穂数が減少するものの登熟具合が高まり、慣行並みの収量となっていますが、広島県では収量はどうかだったでしょうか。また、穂数型品種と穂重型品種で影響の度合いの違いはあるでしょうか。

本多：100%の回答になるかわからないのですが、実際収量低下があるところもありました。早生や中生と定植の時期が違う中で、時期によっては収量低下がみられたものもありました。品種の影響というより、土質であったり、日当たりであったり、田植の開始時期でとあったりと考えます。中干しの開始時期が遅れたところは、収量低下がみられたと感じています。農家さんもプロなので、「俺は、この時期で、この茎数で中干しをする」という人に対して、どのように収量低下を防ぐための指導を行っていくかについては、前年度に自社の農地や別の場所でも試験していることから、ある程度の指導指標はできたと考えています。穂数型品種と穂重型品種での影響の度合いの違いというのは、調べていません。全体的には、収量は平年並みだった、場所によっては収量低下が見られた、というような状況です。

中干しのタイミング

司会：参加者からの事前質問です。中干しの初めと終わりのタイミングを教えてください。

本多：栽培暦どおりにやってくださいと伝えているのですが、ネットゼロファーマーズに入ってもらえば、ある程度の技術的な指標はできているので、もう少し細かい指導や、説明はできるかなと思っています。広島県でも、その他の地域でも、土質であったり、気候であったり、違う部分があると思いますので、僕が喋っていることが、すべての農家さんのアドバイスになるとは思えないので、申し訳ないのですが、技術も関わる部分なのでタイミングに関しては具体的にお伝えできないかなと考えています。

中干し延長に伴う水稻への影響の解決策

司会：参加者からの事前質問です。既に7日から10日中干しをしているのですが、これ以上長く延長すると地割れとかも発生して作物に影響がでると考えています。どのような解決策があると思いますか。

本多：7日から10日中干しをやっていて、さらに7日延長するとなると、農作物、場所とか土質にもよりますが影響はでると思います。どのような解決策があるかは、現地を見たわけじゃないので、答えをだしにくいので申し訳ないのですが、地割れして、作物に影響がでて、品質を落とすとか、味が落ちたとか、未熟米が増えて等級がおちたとか、農業収入をおとすようなところまでやる必要はないと思っています。そういう場合は、しっかりちゃんとお米を作って販売した方がプラスになると思っています。中干し延長に100%取り組むというより、会社の中でこの辺りは湿田も多いし、取り組みそうだなと思うところで取り組んでいく方がよいと思います。プロジェクトの中干し延長は8年の期間があるため、どの農地が中干し延長に取り組むかは、会社と、関連する事業者さんや、我々RevO等がかかわった上で現地の確認をしつつ、農家さんの収益、農産物の収益をおとさないように、慎重に進めていけばよいと思っています。

中干しが可能な農地の判断

司会：参加者からの事前質問です。中干し延長が可能な農地の判別方法を教えてほしい。実際、見てみないとわからないというのが本音の部分ですかね。

本多：そうですね。あとは土質の違いや、地域の作付時期によって、大きく変わってくると、今回やってみて感じています。

広島銀行への購入証明書

司会：参加者からの質問です。購入証明書を発行されていますが、これはRevOのオリジナルのものだと思います。具体的にクレジットを売買する時にどのように販売を確認するのでしょうか。オフィシャルな方法があるのか教えてください。

本多：購入証明書はRevOオリジナルです。具体的にクレジットを販売する際に販売確認するのは、相互でJ-クレジットの口座を持って移転しますので、取引先さんの方も口座を開設いただいた上で、RevOから番号をつけて移転という形になります。クレジットが承認されますとRevOのクレジット口座の方にクレジットが発行されます。その発行されたものを購入企業さまに移転するという形になります。それがオフィシャルで皆さんにご案内できるものかどうかと言うと、違うかなと思います。

私どもの方も、農政局さんに何か国が認める発行証みたいなものがあるのかと問合せましたが、特にそういうものはないとのことだったので、自社で作って進めています。

広島銀行との取引価格

司会：参加者からの質問です。広島銀行には実質おいくらで取引されたのでしょうか。

本多：RevOの方も広島銀行さんの方も公表しておりませんので、申し訳ないのですけ

れども、今回その価格に関しては、今後の取引の関係もありまして、お伝えできないところですが、ご理解いただければと思います。

今後の実施地域の考え方

司会：参加者からの質問です。プログラム型で、参加農家さんの地域の範囲は全国となっています。今後の取組の方向や地域の範囲についてどのように考えていますか。

本多：今後の展開とすれば、とりあえず広島県を中心と考えています。我々も、メンバーを増やそうと考えており、Rev0の取り組み方で農家に寄り添う形だといきなり取組を大きくできるかって言ったら、そうでもないという部分があるのも事実です。広島県近郊であればお伺いできてお話をすることは問題ないと思っています。